

カメムシ類

本県のモモ、リンゴ、ナシに寄生する主なカメムシ類はクサギカメムシ、チャバネアオカメムシである。

発生生態

ヒノキ、スギ、キリなど多くの木本類の子実に寄生する。果樹ではモモのほか、ほとんどの果樹の果実を加害する。

クサギカメムシ

成虫は、暗褐色の地色に黄褐色の不規則な斑紋がある（写真1）。

家屋内や樹皮の下で越冬する。成虫態で越冬し、4月上旬頃から屋外へ脱出し始め、4月下旬がピークとなる。6月下旬頃から7月下旬頃までキリやスギなど多くの植物の葉裏に産卵する。新成虫は7月末頃から見られ、発生盛期は8月中旬頃になる。

チャバネアオカメムシ

成虫は、光沢のある緑色で、黒い点刻がまばらにある（写真2）。

主に広葉樹の落葉下で越冬する。生態についてはクサギカメムシとほぼ同様である。



写真1 クサギカメムシ



写真2 チャバネアオカメムシ

防除のポイント

- ・いずれも成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害するので、常に発生動向に注意し、多飛来が見込まれる時に防除する。
- ・発生時期や発生量が年によって異なるため、発生予察情報に基づき防除を行う。どの種も移動能力が高いため、できるだけ広域一斉防除を行うことが望ましい。

参考文献

- (1) ひと目でわかる果樹の病害虫－第三巻－／社団法人 日本植物防疫協会